

第3学年 音楽科学習指導案

- 1 題材名 歌い継ごう「日本の歌」
教材名 「ふるさと」（高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 平吉毅州 編曲）
- 2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- A 表現（1）ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。
〔共通事項〕 ア 音色、速度、旋律、強弱

(1) 題材観

東日本大震災後、「ふるさと」という言葉が頻繁に聞かれるようになった。慣れ親しんだ場所を離れて生活することを余儀なくされた被災者にとって、「ふるさと」は心の支えであった。被災者以外の多くの日本人も、人々が生まれ育ち、生活の基盤がある「ふるさと」は、大切な場所であることを改めて実感した。中学3年生の生徒にとって、今いるこの場所が「ふるさと」であるという実感はあまりないと思うが、この学習を、ここが「ふるさと」であり、自分たちの「ふるさと」に愛着と誇りをもつきっかけとしてほしいと考えた。また、現在生徒を取り巻く環境においては、インターネットの普及により、海外の音楽を聴いたり、海外で行われているスポーツを見たりすることができる。日常生活、様々な情報にあふれているが、今一度、自国の文化を見つめ直し、「日本の歌」の良さを味わうことができる「ふるさと」の学習を設定した。

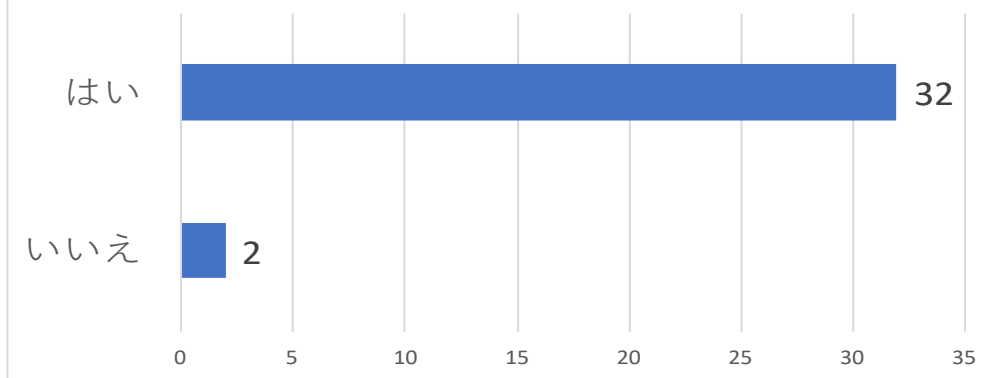
本題材は学習指導要領の「A表現」の内容（1）「ア歌詞の内容や曲想を味わい表現を工夫して歌うこと」「ウ声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」に関する学習内容である。歌詞の内容や曲想から、日本の歌のもつ情緒を味わい、情景を思い浮かべながら、歌唱表現の工夫に生かすことをねらいとしている。

「ふるさと」は短い曲で、どのパートも比較的容易な旋律である。パート練習で音程を確認する時間が短時間で済むため、表現の工夫に時間を費やすことができる。楽曲の美しさを味わったり、曲にふさわしい表現を自分たちで考えたり、工夫させたい。また、「ふるさと」は、小学校6年生の歌唱共通教材である。小学校でも歌詞の内容を想像しながら歌唱していたが、中学校では、より深く歌詞の意味を捉えることができる。このようなことから、豊かな表現方法を工夫させるとともに、アカペラの混声四部合唱の重厚な響きも味わわせたい。

(2) 生徒の実態（男子18名、女子17名、計35名）

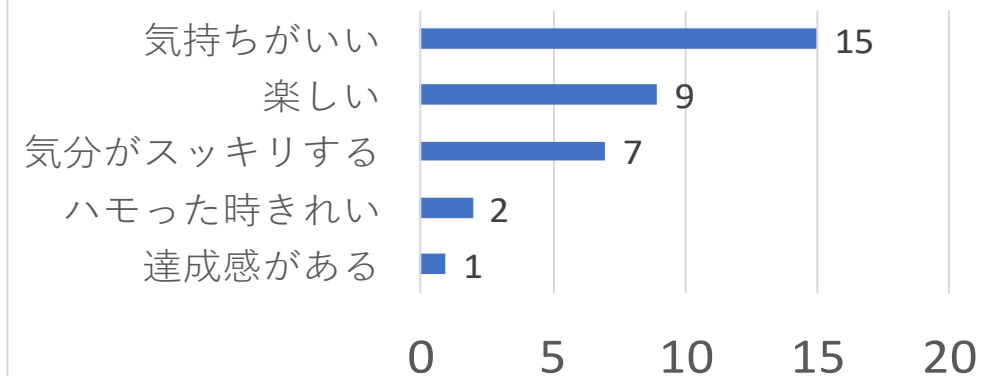
本学級は明るく活発で、自分の思いや考えを自由に発言できる生徒が多い。何事にも意欲的に取り組み、音楽が好きな生徒も大変多い。型にはまらず、のびのびと自由に表現し、気持ちよさそうに合唱している。事前アンケートの結果は以下のようなものである。（調査人数34人、複数回答）

歌うことは好きですか？

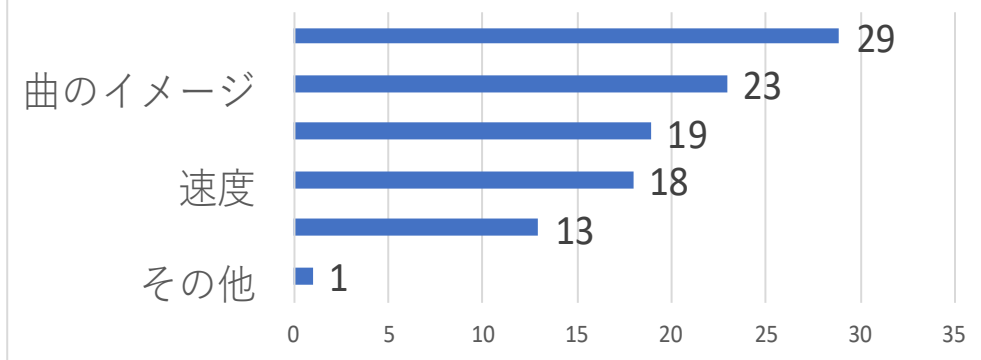


【参考】嫌いな理由として、自分の声に自信がない。ちょうどいい声が出ない。歌うより聴く方が好き。という理由が挙げられた。

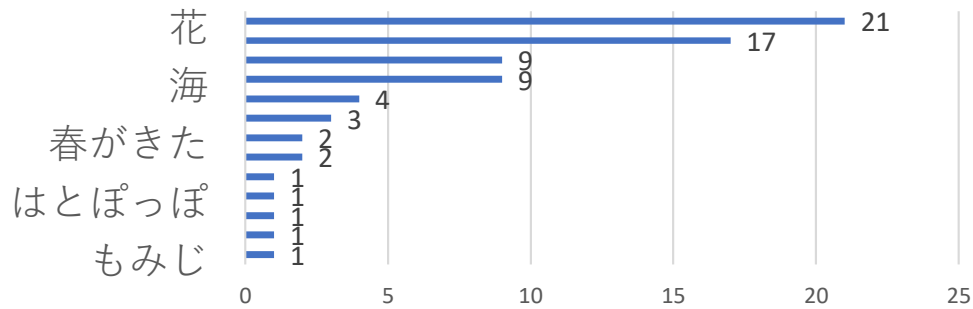
好きな理由



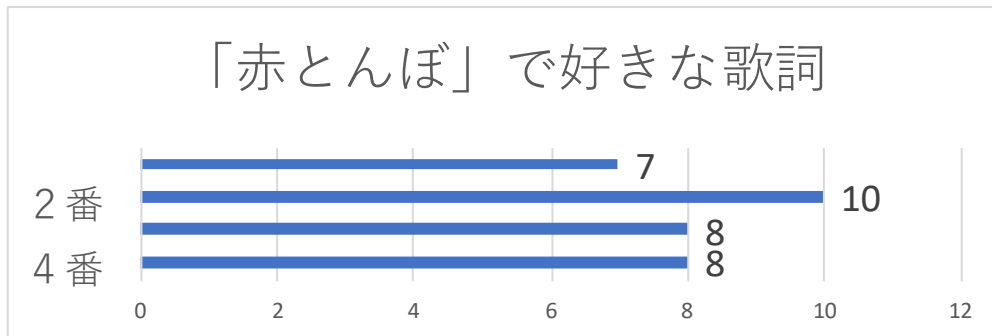
歌う時に気をつけていること



日本の歌で知っている曲



「赤とんぼ」で好きな歌詞



〔好きな理由〕

- 1番
 - ・夕焼け空に赤とんぼを見て、昔のことを鮮やかに思い出しているところ（2人）
 - ・赤とんぼが赤く染まる夕焼け空に飛んでいる情景（4人）
 - ・「いつの日か」の曖昧さ（1人）
 - ・夕暮れの静かな感じ（1人）
- 2番
 - ・姐やとの楽しかった思い出を思い出しているところ（7人）
 - ・「幻」という言葉（切なさを感じる）（3人）
- 3番
 - ・姐やからの便りがなくなり、寂しいと感じている気持ち（5人）
 - ・姐やの大切さを感じているところ（2人）
 - ・15歳というと、今の自分の年に重なるから（1人）
- 4番
 - ・姐やとの思い出を懐かしみながら、今も昔と変わらず赤とんぼが飛んでいるところ（1人）
 - ・昔も見た赤とんぼが、今日の前の竿の先に止まっているところに趣を感じられるところ（2人）
 - ・最後の少し寂しげな感じ。竿の先に一匹（独りぼっち）という感じが染みる（1人）

【どのような工夫をして歌いますか？】

- 1番
 - ・「いつの日か」を で歌う。
（遠い昔の思い出は、少しずつ消えてしまう、はかなさを表現）
 - ・「赤とんぼ」をゆっくり歌う。（夕焼け空をゆっくり飛んでいる様子を表現）
- 2番
 - ・「まぼろしか」を rit. で歌う。
（しみじみと思い出している感じと、切ない感じを表現）
 - ・「まぼろしか」を p で歌う。（切ない感じを表現）
 - ・「まぼろしか」を で歌う。（はかなげに、スッとぬくように表現）
 - ・「まぼろしか」を f で歌う。（昔の記憶を強調して表現）
- 3番
 - ・「たえはてた」を、少し暗めに歌う。
 - ・「たえはてた」を rit. でうたう。（姐やのことを思い出しながら）
- 4番
 - ・「竿の先」を rit. しながら p で歌う。（寂しげな感じを表現）

《考察》

アンケートの結果から、歌っていると気分が良くなる、楽しい気持ちになると感じている生徒が多い。一方、嫌いだと答えた生徒の理由としては、自分の声に自信がない、ちょうどよい声が出ない、歌うより聴く方が好きという理由が挙げられた。変声期になり、オクターヴ下げて歌うという感覚がわからず、正しい音程で歌えなくなってしまうことが原因として考えられる。歌うことが嫌にならないために、周囲と比べるのではなく、その生徒自身の成長が見られた時は褒め、歌うことへの意欲が高まるよう、声をかけていきたい。

歌う時には音程や強弱などの技能面に気をつけるだけでなく、曲のイメージを考えて歌おうとしている生徒も多い。ただ歌うだけではなく、人に伝わる音楽にするための工夫では、情景を思い浮かべながら歌う、思いを込めて歌うなど、イメージを大切にしたいと考えている生徒がいることがわかる。同時に、顔の表情をよくする、体全体で歌うなど、豊かな表現を身につけたいと考えている生徒も多い。表情豊かに合唱することは難しいが、声だけではなく、顔や体全体からも表現したいことがあふれ出てくるような合唱をさせたい。また、「赤とんぼ」の歌詞から、どのような表現方法が考えられるか質問したところ、上記のような結果が出た。歌詞の内容から、様々な思いや情景を感じ取り、強弱や速度の工夫を考えることができた。「ふるさと」においても、歌詞の内容や情景を理解しながら表現の工夫を考えさせたい。

「日本の歌」については、あまり多くの曲を知らないことがわかった。中1で『赤とんぼ』中3で『花』を扱ったが、中学校の授業において、「日本の歌」に触れる機会が少ないためだと思う。様々な音楽にあふれている今、普段の生活の中で「日本の歌」を聴いたり歌ったりすることは、ほとんどない。知っている曲の多くは、小学校や中学校の教科書に載っている曲である。すなわち、「日本の歌」を、学校で教えなければ知ることができないことが現状である。

「日本の歌」は、派手さはないが、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるものであり、我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものである。以前、「花」の学習をした時に、「日本の歌」を歌った感想や、古くから歌い継がれている「日本の歌」についてどのように思ったか記入させたところ、「四季の美しさを感じられた」「複雑なハーモニーではないが、メロディーがずっと心に染みてきた」「歌詞に共感できる」などと答える生徒が多く、日本特有の趣を感じ取ることができたと感じている。「ふるさと」の学習を通して、さらに「日本の歌」の良さを味わわせたい。

(3) 指導観

「ふるさと」は、小学校6年生の歌唱共通教材である。1番では、生まれ育った故郷を、今では夢でしか見ることができないけれど、忘れることができない大切な場所であること。2番では、毎日のふとした出来事で故郷の景色を思い出すこと。3番では、自分で決めた目標をいつか成し遂げることができたなら、その時は故郷へ帰ろうと思っていることが歌われている。作詞者である高野辰之の子供の頃の思い出を懐かしむという内容で、故郷から離れて、学問や勤労に励む人の心情を歌っている。

2014年、文部省唱歌「ふるさと」がつけられてから100年を迎えた。社会状況が目まぐるしく変化しているが、100年経っても歌い継がれているこの曲は、日本人の心に染み入る歌であることがわかる。情景に結びつく映像を見せたり、繰り返し歌詞を読ませたりすることで、日本語のもつ美しさを味わい、我が国の文化を尊重し、日本語を大切にすることを育てたい。そして、自分が生まれ育ったこの場所に愛着と誇りを持ち、時代が変わっても「ふるさと」を聴いたり歌ったりすることで、誰にとっても、自分の故郷は大切な場所であると感じる心を養わせたい。

3 題材の目標

「日本の歌」の歌詞の内容やフレーズのまとまりを感じながら、曲にふさわしい表現を工夫する。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わうって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

○小学校で学んだ学習を生かした表現の工夫

小学校では、『歌詞の内容を理解して、曲想を味わいながら歌う』という目標で「ふるさと」の学習をしている。歌詞の内容や歌詞に込められた思いを理解し、曲想を味わいながら歌うこと、旋律の音の動きを考えながら強弱を工夫して歌うことなど、歌詞と旋律の音の動きを結びつけながら学習活動に取り組んだ。同じ楽曲でも、小学生から中学生に成長する段階で、歌詞の内容を深く捉えることができ、豊かな表現ができるようになることを考える。中学校では、小学校で学習したことを土台として、自分の思いや意図を豊かに表現させたい。また、言葉の発音の仕方を工夫することで、言葉の美しさを感じ取らせたりして、「日本の歌」の良さを味わわせたい。

6 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
1	ねらい 「ふるさと」の歌詞の情景を知り、正しい音程で歌う。 ○「ふるさと」の歌詞の内容や情景、歌詞に込められた思いを感じ取る。 ・範唱を聴く。 ・作詞者、作曲者について知る。 ・歌詞の意味を知る。 ○パート練習 ・正しい音程で歌う。 ○1番の表現方法を考える。 ・主旋律の動きから、強弱を考える。 ・歌詞の内容から訴えたい思いや、強調させたい言葉などを考える。	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
2 本時	ねらい 歌詞の内容や情景を思い浮かべながら、表現を工夫する。 ○2番、3番の表現を工夫する。 ・2グループに分かれ、自分たちの担当する歌詞の表現方法を考える。 ・グループ内で自分の意見を発表する。 ・拡大した歌詞に、工夫したことを書き込む。 ・グループごとに発表する。 ・自分たちが考えた表現方法で歌う。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わうって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫) (表現の技能)

7 本時の学習（2 / 2）

（1）本時の目標

○歌詞の内容や曲想を手がかりに、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫する。

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法）
7分	1 「校歌」と「千葉市歌」を歌う。 ・発声練習を兼ねて、のびのびと歌う。 2 本時の目標を知る。	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法） ○姿勢、表情に気を付けながら歌うことを確認する。 ○本時の目標を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">歌詞に込められた気持ちや情景を想像しながら歌おう。</div>		
3分	3 「ふるさと」の1番を合唱する。 ・前時に考えた表現方法で1番を合唱する。	○前時に記入した拡大歌詞を見ながら1番を合唱する。
25分	4 2グループに分かれ、担当する歌詞の表現を工夫する。 ・自分の意見を発表する。 ・グループ内で合唱しながら意見をまとめる。 ・拡大した歌詞に、工夫することを書き込む。	○考えるためのヒントを示す。 ・歌詞の内容 ・際立たせたい言葉 ・訴えたい思い などから考える。 ・1番との比較 ◆音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 （音楽の創意工夫） 〈観察〉
10分	5 2番を考えたグループが話し合ったことを発表する。 6 全員で、2番を合唱する。	○拡大歌詞に書き込んだものを見せながら発表させる。 ○工夫したことがわかるように合唱させる。
10分	7 3番を考えたグループが話し合ったことを発表する。 8 全員で、3番を合唱する。	○拡大歌詞に書き込んだものを見せながら発表させる。 ○工夫したことがわかるように合唱させる。
5分	9 「ふるさと」の1～3番を合唱する。	○それぞれの歌詞の内容をイメージしながら合唱させる。 ◆歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 （表現の技能） 〈観察〉
5分	10 本時の学習を振り返る。	○今日の授業で学んだことを発表させる。